

米韓空軍 戦術空輸能力の強化訓練を実施 US, ROKAF conduct training to enhance tactical airlift capabilities

July 5, 2024

By Senior Airman Natalie Doan
374th Airlift Wing Public Affairs

6月25日、米空軍と韓国空軍のC-130Jスーパーハーキュリーズ5機の編隊が、戦術空輸能力の向上を図る訓練の一環として、朝鮮半島で大規模な空中投下補給任務を行った。

この訓練で米空軍と韓国空軍は、朝鮮半島で初めて5機の編隊飛行を行い、韓国空軍、第7空軍および第374空輸航空団の米韓両軍の関係構築と相互運用性を強化する取り組みを強調した。

地上管制と指定降下地帯の調整を行った第607航空支援運用群の航空機動連絡官ジョージ・フォギン大尉は「横田基地からのC-130と金海からの韓国空軍の部隊が、コンテナ・デリバリー・システムの物資を空中投下するのを支援するために参加している」と話した。

第36空輸中隊の空兵が、4機のC-130Jで横田基地から韓国の金海基地へ向かい、そこで米韓空軍の空兵がコンテナ・デリバリー・システムの物資を各輸送機に積み込んだ。

この間、米韓両空軍の操縦士らも任務の詳細を話し合うためのブリーフィングに参加した。

第36空輸中隊管轄区域軍事交流主任ティモシー・キム大尉は「第36空輸中隊は、韓国空軍との相互運用性を構築し、戦術的な空中投下訓練を行うためにこの訓練を実施した。特にこれまでに経験のない空域や降下地帯での空中投下や戦術飛行演習は、第36空輸中隊にとって価値あるものだ。韓国の同盟国軍と共に飛行する有意義な機会だった」と述べた。

第36空輸中隊と韓国空軍が最後に連携を組んだのは、2023年のクリスマス・ドロップ作戦で、マイクロネシアの58の離島に人道支援物資を届けた。その前に両軍はヘルク・ガーディアンズ23の演習で協力し、低空飛行と編隊飛行を組み合わせた戦術編隊訓練を行った。

第36空輸中隊C-130Jスーパーハーキュリーズ教官操縦士キム・ヒジュン少佐は、ヘルク・ガーディアンズ23演習の副任務指揮官と今回の空中投下訓練の任務指揮官を務めた。ヘルク・ガーディアンズ23で築いた経験と関係性が、両軍が離れた場所で任務計画を成功裏に調整され、大規模な空中投下補給を実行する道筋となったと語る。

ヒジュン少佐はこう語った。「こうした訓練は、有事の際に協力し、支え合うことができることを証明するものだ。共に訓練を積むほどスムーズに連携が図れるようになる。部隊の行動パターンの違いから言葉の壁まで、乗り越えなくてはならない障壁はある。これらの障壁は、協力し互いをよりよく理解することによってのみ解決することができ、連携を通じて連合軍として効果的かつ効率的に任務を遂行することができる」

